

令和3年3月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和3年3月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

東日本大震災からの復興道路と位置付ける三陸沿岸道路（八戸市～仙台市）のうち、洋野種市IC～侍浜IC間（16キロ）が3月20日に開通することとなりました。

これにより、八戸・久慈自動車道の全線が開通することとなり、交流が盛んな八戸市と久慈市間（50キロ）が高規格幹線道路で結ばれ、両地域の産業・経済の活性化や観光振興など、各方面での効果が期待されます。

なお、八戸市～久慈市間の所要時間は25分短縮されて40分となります。

◆三陸沿岸道路の詳細はこちらをご覧ください（国土交通省東北地方整備局）

<http://www.thr.mlit.go.jp/road/fukkou/content/road/sanriku/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 3月号 レポート

令和3年2月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	2020年八戸市内の火災死者ゼロ コロナ自粛影響か
(2)	陸自八戸 災害派遣想定し炊事競技会開催 ～避難者においしい食事を～
(3)	八戸市美術館11月オープンへ 館長に日大・佐藤教授

【産業】

記事	概要
(4)	青森県黒にんにく協会 医療機関に「青森の黒にんにく」を無償提供
(5)	医療従事者に感謝のチョコ 八戸市民病院に第一生命が寄贈
(6)	「ドラゴンラーメン」生活困窮者に無料でラーメン提供
(7)	1回1000円の真珠ガチャ はっちに登場

【地域】

記事	概要
(8)	種差海岸芝生地 黒い模様の「モグラ塚」出現
(9)	かもめ幼稚園で「ブイヤベース食事会」開催
(10)	八戸学院光星高の泉さん、門さん快挙 トレース技能検定1級合格
(11)	八日町・番町 再整備構想浮上 新美術館控え景観向上へ

【文化・スポーツ】

記事	概要
(12)	ゴールボールパラ女子代表 天摩選手（八戸出身） 11カ月ぶりに実戦 大会出場
(13)	呉勝浩さん（八戸出身）の新刊「おれたちの歌をうたえ」刊行
(14)	「八戸子どもの本の会」代表の山田さん 文科省表彰
(15)	「えんぶりinはっち」開催 ～八戸えんぶり 写真や人形で～
(16)	長者山新羅神社で「八戸えんぶり中止奉告祭」
(17)	2023年スケート国体 青森県に開催要請

【行政】

記事	概要
(1)	<p>2020年八戸市内の火災死者ゼロ コロナ自粛影響か</p> <p>八戸地域広域消防本部が1月31日までにまとめた圏域8市町村の2020年火災・救急概況によると、火災発生は106件で前年比24件減、火災に伴う死者は2人で前年（9人）を大きく下回り、中でも八戸市内は10年ぶりのゼロだった。圏域の救急出動は1万2075件と、過去最高だった前年（1万2887件）から812件の減となった。火災や救急出動の減少について、消防本部は「新型コロナウイルスによる外出やイベントの自粛が影響している可能性が高い」と分析している。</p>
(2)	<p>陸自八戸 災害派遣想定し炊事競技会開催 ～避難者においしい食事を～</p> <p>陸上自衛隊八戸駐屯地は2月8日、災害派遣での炊き出し支援を想定した炊事競技会を開催した。テーマは「地域の食材を使用したせんべい汁を含む郷土料理」で、6チーム計37人が参加。隊員たちは部隊の装備品である野外炊具を用いて、避難者においしい食事を届けたいとの気持ちで腕を振った。サバを使ったタイ料理のガパオライスや牛もつ入りせんべい汁などを調理した、第4地对艦ミサイル連隊第3中隊（第4地对艦-3）が優勝。第4地对艦-3は、野戦特科部隊として毎月炊事訓練に励んでおり、アイデアや味、盛り付けが高く評価された。</p>
(3)	<p>八戸市美術館11月オープンへ 館長に日大・佐藤教授</p> <p>八戸市は2月17日、市庁前に建設中の新美術館の館長に、日本大理工学部建築学科教授の佐藤慎也さん(52)を選任したことを明らかにした。佐藤さんは東京都出身。美術館建設工事の設計者選定プロポーザル審査委員会の副委員長を務めたほか、2017年から美術館の運営検討委員会のメンバーとなっている。施設の正式名称は「八戸市美術館」とし、グランドオープンは11月に決定。グランドオープンと同時に開館特別展を実施し、来年1月まで八戸三社大祭を主なテーマに、浮世絵や現代アートなどの作品展示を通じて、地域とつながるアートプロジェクトを展開する。</p>

【産業】

記事	概要
(4)	<p>青森県黒にんにく協会 医療機関に「青森の黒にんにく」を無償提供</p> <p>新型コロナウイルスの対応に当たる医療従事者を応援しようと、青森県黒にんにく協会（柏崎進一理事長）は2月3日、八戸市立市民病院など医療機関4施設に、加盟企業が製造した「青森の黒にんにく」を30キロ（約3千食分）ずつ無償提供した。同協会は、昨年県内外の医療機関に黒にんにくを贈っており、第5弾となる今回は、同病院と十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院、東北医科薬科大学病院（仙台市）に提供した。柏崎理事長らは同日、八戸市庁に小林真市長を訪ね、目録を手渡した。小林市長は、黒にんにくに免疫力向上やストレス緩和などの効果があるとの説明を受け、「免疫力を高めることは感染予防と同じくらい大切。大変ありがたい」と感謝した。</p>
(5)	<p>医療従事者に感謝のチョコ 八戸市民病院に第一生命が寄贈</p> <p>第一生命保険青森支社は2月9日、新型コロナウイルスの治療など最前線で奮闘する医療従事者に感謝と激励のメッセージを伝えようと、八戸市立市民病院にメッセージカード付きのチョコレート760個をプレゼントした。八戸エリア（八戸市と三戸郡）独自の取り組みで、従業員から「医療従事者を支援したい」との声が上がったのがきっかけ。寄贈したチョコレートには、同エリア内の従業員やその家族、顧客ら約160人が手書きしたメッセージカードも添えられた。この日、同社の成富公晴エリア統括部長らが同病院を訪れ、今明秀院長にチョコレートが入った紙袋を贈呈。今院長はメッセージカード一つ一つに目を通しながら、「元気をもらいました。励みになります」と謝意を伝えた。</p>

(6)	<p>「ドラゴンラーメン」生活困窮者に無料でラーメン提供</p> <p>八戸市公会堂内にあるラーメン店「ドラゴンラーメン」（石動龍店長）では、地域の生活困窮者を支援しようと、食事など日々の生活に困っている人を対象に、ラーメン1杯を無料で提供する取り組みを始めた。自殺で親しい知人を亡くした経験があるという石動さんは、「生活が苦しいという理由で自殺を選んでしまう前に、何とか支援に結び付けたい」との思いから、ラーメンの無料提供を決意した。現在は特に、コロナ禍の影響で生活が困窮している人にも利用してもらいたい考えで、公認会計士や税理士、司法書士としての知識や経験を生かし、公的支援に結び付ける対応をしていく。無料提供は1人1杯まで。</p>
(7)	<p>1回1000円の真珠ガチャ はっちに登場</p> <p>八戸市の「はっち」1階カネイリミュージアムショップに2月15日、「あこや真珠ガチャ（カプセル販売機）」がお目見えした。ショップを運営する同市の金入が、真珠産地の宇和海真珠（愛媛県）と取引しているのが縁で、はっちのほか、カネイリの下田店、弘前店、盛岡フェザン店にも設置した。ガチャは1回千円、外れなしで、国産あこや真珠を使ったネックレスや指輪などが入っており、真珠の色は白やピンク、青やグレー、ゴールドとさまざまで、保証書付き。中には2個入りの"当たり"もあるという。設置は5月末までの予定。</p>

【地域】

記事	概要
(8)	<p>種差海岸芝生地 黒い模様の「モグラ塚」出現</p> <p>雪解けが進む種差海岸天然芝生地では、モグラの活動が活発になっている。2月5日、地表付近にトンネルを掘る際にできる「モグラ塚」があちこちで見られ、不思議な模様を芝生地に浮かび上がらせていた。種差観光協会によると、モグラ塚は年間を通して見られるが、観光客が減る冬場は特に多いという。同協会の柳沢卓美会長は「モグラが塚を増やすと芝生は荒れ、景観を維持するのも大変だが、地面を耕し土壌を豊かにもしている。種差に興味を持つきっかけの一つとなればうれしい」と笑顔で話していた。</p>
(9)	<p>かもめ幼稚園で「ブイヤベース食事会」開催</p> <p>八戸市のかもめ幼稚園は2月9日、八戸の地魚に親しんでもらおうと、八戸プラザホテルの協力を得て同園で「ブイヤベース食事会～八戸のお魚大好き～」を開いた。年長園児13人が、新鮮な魚介などブイヤベースの食材に触れながら、須田忠幸総料理長の包丁さばきに見入った。食事では、テーブルマナーを学びながら、タラ、サメ、サケ、ムールガイやジャガイモ、芽キャベツなど、具だくさんのブイヤベースを味わい、八戸の海の幸への関心を深めた。</p>
(10)	<p>八戸学院光星高の泉さん、門さん快挙 トレース技能検定1級合格</p> <p>八戸学院光星高工業技術科の生徒2人が、2020年度トレース技能検定試験（中央工学校生涯学習センター主催）の1級に合格し、全国3位相当の同センター理事長賞に泉竜雅さん、7位相当の優良賞に門美波さんが輝いた。トレース技能検定は、トレーシングペーパーに複雑な図や工業用図面を正しく、美しく、速く、手書きで清書する専門知識や技能を認定する資格。建築、土木、機械、デザインなどの業界で生かせるという。1級はより高度な技術が求められ、合格すれば指導も可能となる。今回は全国で243人が受験し、合格者は152人だった。上位入賞は同校初の快挙。</p>

(11)	<p>八日町・番町 再整備構想浮上 新美術館控え景観向上へ</p> <p>八戸市中心街の八日町・番町エリアで、民間の地権者らによる街区の再整備構想が持ち上がっていることが分かった。近くでは市新美術館が今年11月の開館を控えており、地元関係者が新施設と連動した街並みの景観向上を模索している。中心街のメインストリートにある八日町バス停から、美術館側に通り抜けられる歩道を整備する案も浮上している。八日町地区では約30年前にも再開発計画が浮上し、実現に至らなかった経緯があるが、今回は新美術館の建設を機に、関係者の間で再整備に向けた機運が高まり、昨年から地権者らがまちづくりに関する勉強会を重ねてきた。計画内容によっては国の補助金を活用できる可能性があり、市や八戸商工会議所も連携して官民で再整備事業の全体像を描けるかが今後の焦点となる。</p>
------	--

【文化・スポーツ】

記事	概要
(12)	<p>ゴールボールパラ女子代表 天摩選手（八戸出身） 11カ月ぶりに実戦 大会出場</p> <p>東京パラリンピックのゴールボール女子日本代表に内定している天摩由貴選手（八戸市出身、マイテック）が2月6日、千葉市内で開催された「ジャパンパラゴールボール競技大会」に出場し、約11カ月ぶりの実戦で汗を流した。大会は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されている代表内定選手の強化が目的。女子代表が2チームに分かれて対戦し、天摩選手はAチームのキャプテンを務め、後半戦に出場。相手守備の乱れを突き、ゴール隅の際どいコースを攻めるなど巧みなボールさばきを見せた。試合は僅差で敗れたが、実戦感覚を取り戻した様子だった。新型コロナウイルスの収束が見通せない中、パラ本番に向け天摩選手は、「金メダルを目指して練習していだけ」と決意を新たにしている。</p>
(13)	<p>呉勝浩さん（八戸出身）の新刊「おれたちの歌をうたえ」刊行</p> <p>八戸市出身の呉勝浩さん（大阪在住）の単行本10冊目となる「おれたちの歌をうたえ」（文藝春秋）が、2月10日に刊行された。50代後半の元刑事が、幼なじみの死をきっかけに、過去の事件の真実に迫る姿を描いた、昭和、平成、令和の三つの時代にまたがる壮大な大河ミステリー。永井荷風や太宰治などの近代文学、1972年のあさま山荘事件が物語の謎を解く鍵として登場し、緻密で骨太のミステリーは本書でも健在。直木賞候補となり、吉川英治文学新人賞と日本推理作家協会賞を受賞した「スワン」から1年以上間隔を空けての新作で、現在と過去が交錯する壮大な物語を目指して執筆に取り掛かった。「おれたちの歌をうたえ」は608ページ、2200円。</p>
(14)	<p>「八戸子どもの本の会」代表の山田さん 文科省表彰</p> <p>八戸市立図書館で長年、絵本や紙芝居の読み聞かせを続けている、「八戸子どもの本の会」代表の山田剛也さん(81)が、文部科学省の図書館法施行70周年記念図書館関係者表彰に選ばれた。同会は、絵本の読み聞かせなどで子どもが楽しめる場をつくらうと、1977年に山田さんが設立。同館が現在地に移転した1984年以降、週1回程度、読み聞かせを行っている。表彰は10年ごとに、地域などで多年にわたる図書館活動推進の功労者をたたえるもので、今回は全国で76人が選ばれ、青森県内では山田さんのみが選出された。</p>
(15)	<p>「えんぶりinはっち」開催 ～八戸えんぶり 写真や人形で～</p> <p>八戸市の「はっち」で2月13日から21日まで、「えんぶりinはっち2021」が開催された。新型コロナウイルスの影響で公演は中止となったが、祝舞を踊る子どもを収めた写真や、勇壮な摺りを披露する太夫の人形などが展示された。1～3階は、子どもが先頭でかわいらしく踊る「えんこえんこ」や、太夫が神前で摺る写真など、公募した48点が並んだ。3階では、同市の人形作家下崎雅之さんによる作品31点が展示され、「田植え」などの様子が精巧に表現されていた。展示のほか、画用紙でのオリジナルえんぶり作りや、全問正解で「えんぶりマスター」証明書がもらえるクイズなども行われた。</p>

<p>(16)</p>	<p>長者山新羅神社で「八戸えんぶり中止奉告祭」</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、約800年の歴史を持つ民俗芸能「八戸えんぶり」が中止となったことを受け、本来の開幕日に当たる2月17日、八戸市の長者山新羅神社では中止奉告祭が執り行われた。豊年祈願祭を兼ねた中止奉告祭には、神社の責任役員や総代12人が参列。太鼓の厳かな音色とともに開始し、柳川浩志宮司が中止についての祝詞を奏上。全員で祭壇に玉串をささげ、地域の安寧を祈願した。参加者らは北国に春を呼び込んできたえんぶりの伝統をかみ締めながら、五穀豊穡と悪疫退散への願いを一層強めた。</p>
<p>(17)</p>	<p>2023年スケート国体 青森県に開催要請</p> <p>日本スポーツ協会は2月25日、青森県に対し、2023年の国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会の県内開催を正式に要請した。県は今後、会場候補地の八戸市と南部町、競技団体の意向を確認した上で結論を出す。八戸市では2020年に冬季大会「氷都新時代！八戸国体」が行われており、2023年の開催が決まれば3年ぶり14度目となる。また、2026年の県内開催が内定しており、7年間で3度の冬季大会を行うこととなる。</p>